

## 平成25年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	良質で多収の四季成り性イチゴ品種「すずあかね」の特性	
[要約] 四季成り性イチゴ品種「すずあかね」は、果実が固く大果で果実品質が良好であり、収量が高く夏秋どり品種として優れる。また、4月中旬定植で6月から10月を主な収穫期とした場合、定植から9月までの施肥窒素量は1株あたり2.4g程度が適当である。				
キーワード	四季成り性	イチゴ	収量	技術部南部園芸研究室

### 1 背景とねらい

近年、四季成り性イチゴの品種改良が積極的に行われてきており、特性の優れた品種が育成されてきていることから、その特性評価を行い、果実品質が良好で、収量が高く、本県での業務向け夏秋どり栽培に適応性が高い品種を選定する。

### 2 成果の内容

- (1) 「すずあかね」(ホクサン株式会社)は4月中旬定植作型において、「なつあかり」(東北農業研究センター)に比べて商品果の収量が高く、また、「なつあかり」、「エッチェスー138」(ホクサン株式会社)に比べて商品1果重が大きい。1株あたり総収量270g程度、商品果収量220g程度が期待でき、沿岸地域で栽培した場合収量が高い(表1)。
- (2) 果実は球円錐形であり、洋菓子など業務向けに求められる果実の硬度は「なつあかり」に比べて固く店持ちに優れる。Brix糖度はやや低い(図2、表2)。
- (3) 1日あたり1株あたりの窒素施用量は、定植～第1花房出蕾時が10mg、第1花房出蕾時以降が15mgとし、9月までの施肥窒素量は1株あたり2.4g程度が適当である(表3、図1)。

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 「すずあかね」は黒斑病に弱いことから、栽培にあたっては本病害に対する予防的防除を実施する。
- (2) 「すずあかね」は、個人での苗増殖が禁じられており、定植苗(冷蔵苗)を購入する必要がある。
- (3) 本成果は陸前高田市の南部園芸研究室圃場および北上市の農業研究センター本部圃場においてハンモック式高設栽培で実施した結果である。なお、本試験は購入苗を2月に9cmポットに鉢上げ育苗した後、4月に定植したものである。

### 4 成果の活用方法等

- (1) 成果の対象者、地域  
沿岸地域および県北・高冷地を管轄する指導機関
- (2) 期待する活用効果  
本県産夏秋どりイチゴの生産力および品質の向上

### 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H22-05)イチゴ夏秋どり作型における適品種の選定と多収生産技術の確立 [H22～25、県単]
- (1000) 夏秋どり作型における四季成り性イチゴ適品種の選定 [H22～25、県単]
- (2000) 夏秋どり作型における多収生産技術の開発 [H22～25、県単]

### 6 研究担当者

山田 修、藤尾 拓也、佐々木 裕二、小田島 雅

### 7 参考資料・文献

- 平成20年度試験研究成果「四季成り性イチゴの主要品種の特性(指導)」
- 平成22年度試験研究成果「四季成り性イチゴ主要3品種の春植え栽培における培養液濃度の適正範囲(指導)」
- 岩手県農業研究センター試験成績書(H22～25 南部園芸研究室、一部未定稿)

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 品種別果実収量（4月中旬定植）

品種	年次 <sup>z)</sup>	株当たり果実重量(g/株)			株あたり果実個数(個/株)			商品果1果重(g/個)	10aあたり商品果収量(kg/10a) <sup>v)</sup>
		商品果 <sup>y)</sup>	規格外 <sup>x)</sup>	総収量 <sup>w)</sup>	商品果	規格外	総収量		
すずあかね	2010	319.7	19.5	339.2	28.7	9.3	38.0	11.1	2,813
	2012	186.5	66.7	253.2	23.5	17.4	40.9	7.9	1,641
	2013	167.3	52.4	219.7	19.9	9.7	29.6	8.4	1,472
	平均	224.5	46.2	270.7	24.0	12.1	36.2	9.4	1,976
なつあかり(対照)	2010	220.0	26.8	246.8	25.1	13.7	38.7	8.8	1,936
	2012	129.9	87.3	217.2	16.5	16.8	33.3	7.9	1,143
	2013	108.5	34.3	142.8	14.2	5.9	20.1	7.6	955
	平均	152.8	49.5	202.2	18.6	12.1	30.7	8.2	1,345
エッチエスー138(夏実)	2010	305.4	36.6	342.0	34.0	18.2	52.1	9.0	2,688
	2012	145.3	117.9	263.2	21.1	30.6	51.7	6.9	1,279
	2013	-	-	-	-	-	-	-	-

<sup>z)</sup>2010年：陸前高田市、2012年、2013年：北上市

<sup>y)</sup>商品果：4g以上の正常果 <sup>x)</sup>規格外：4g未満の正常果および形状の劣る果実

<sup>w)</sup>総収量：商品果＋規格外

<sup>v)</sup>8,800株/10aとして算出

表2 品種別果実品質

品種	果実糖度(Brix%)		果実硬度(kg/cm <sup>2</sup> )	
	H22.7	H25.10	H22.7	H25.10
すずあかね	6.5	9.6	0.56	0.54
なつあかり(対照)	8.7	10.1	0.39	0.36
エッチエスー138(夏実)	6.3	-	0.54	-

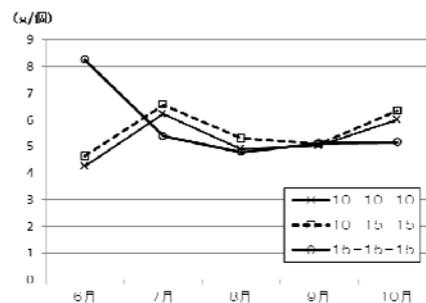


図1 時期別窒素施用量の違いが規格外果実重量に及ぼす影響

表3 すずあかねに対する時期別窒素施用量が収量に及ぼす影響（H25）

時期別窒素施用量(mg/日/株) <sup>z)</sup>	総窒素施用量(g/株)	収量(g/株)					合計収量	左記のうち商品果収量
		6月	7月	8月	9月	10月		
10-10-10	1.8	50.6	57.4	95.5	35.0	36.0	274.5	224.8
10-15-15	2.4	57.9	80.5	94.2	40.0	44.4	317.0	247.9
15-15-15	2.7	55.9	67.4	83.4	33.1	35.2	274.9	199.0

<sup>z)</sup> 定植から第1花房出蕾時、第1花房出蕾時～第2花房出蕾時、第2花房出蕾時～9月までの1株あたり窒素施用量(mg/日/株)



図2 すずあかねの果実



参考：なつあかり